

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1495600122
法人名	セントケア神奈川株式会社
事業所名	セントケアホームゆりがおか
訪問調査日	2016年2月9日
評価確定日	2016年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495600122	事業の開始年月日	平成22年5月1日	
		指定年月日	平成22年5月1日	
法人名	セントケア神奈川株式会社			
事業所名	セントケアホームゆりがおか			
所在地	(215-0003) 神奈川県川崎市麻生区高石2-20-15			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成28年2月2日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月30日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.saint-k.com
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・小田急百合ヶ丘駅より徒歩10分の位置にあります。近隣には高石神社や、潮音寺などが有り散歩を行っております。少し車を走らせると、読売ランドやバラ園等が有り外出の機会も多く取り入れています。必要に応じて1対1での散歩も行ってまいります。現在は、ホームゆりがおかをお客様にとって安心出来る「第2の家族のような環境作り」と考え、1日1日を笑顔の絶えない明るいホームを作っております。お客様にとって、かけがえのない人生の1ページを作れるよう行っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成28年2月9日	評価機関 評価決定日	平成28年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●このホームはセントケア神奈川株式会社の経営です。セントケアは2007年4月に企業グループを再編成し、セントケア・ホールディング株式会社が統括、セントケア神奈川株式会社はその傘下です。セントケア・ホールディング株式会社としては6000名の社員を擁する大総合福祉会社です。セントケアは理想を福祉社会の創造に置き、「笑顔の創造」を理念とし、3つの規律（高い思想と謙虚な姿勢、損得より役立ちの優先、ケアの本質の追及）を設け全職員一丸となって福祉に取り組んでいます。毎年、企業の経営方針書が作成されるので、それに沿ったホームの理念方針を作成し、毎朝の朝礼時に唱和し、周知・徹底しています。今年度の方針「笑顔の創造」のコンセプトとは、利用者と職員がその人らしい笑顔が見れるように支え合う体制を作ることです。セントケアホームゆりがおかでは居心地の良いホーム作りとスタッフの質の向上を目標としています。このホームは百合ヶ丘駅から徒歩で10分程度の高台の住宅地にあります。小規模多機能事業所が同じ敷地内にあり、隣には他社のデイサービス、裏には由緒ある寺院があり環境の良い立地となっています。

●職員の教育については本社の年間研修計画、外部研修、ホーム内研修の充実を図ると共に、新人を本社に集め、新任スタッフの全体集合研修、訪問系、施設系の個別研修、プログラムとチェックリストを活用した現場でのOJT研修を実施しています。他の営業所の人に会い、刺激を受けることによるスキルアップを図っています。この事業所の熟練研修（ミーティング時）は月のタイトルが決まっています一緒に学ぶ体制があります。

●自治会には小規模が加入し、地域の高石神社のお祭り、どんど焼、清掃活動などにグループホームも一緒に参加しています。ホームを知って頂くことも含めて夏祭や花火大会を実施し、地域の1人1人と付き合いを深めるようにしています。散歩の際に地域の方に挨拶をしたり、コミュニケーションをとるようにしています。隣接している小規模多機能にボランティアの方が来所した際には、合同で楽しんでいきます。また、近所の小学校のコーラス部の子ども達が年4回、30人位の来訪があり、利用者に歌を披露してくれています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	セントケアホームゆりがおか
ユニット名	百合の花

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔の創造」を理念に掲げ、管理者と職員はその人らしい笑顔が見れるように支えあう体制を作ることを、朝礼で方針書朗読し、夕礼でお客様情報の申し送りする事を徹底するようにしている。	セントケアは理想を福祉社会の創造に置き、「笑顔の創造」を理念とし、3つの規律を設け全職員一丸となって福祉に取り組んでいます。毎年、企業の経営方針書が作成され、それに沿ったホームの理念方針を作成し、毎朝の朝礼時に唱和し、周知・徹底しています。今年度の方針「笑顔の創造」のコンセプトとは、利用者と職員がその人らしい笑顔が見れるように支え合う体制を作ることです。セントケアホームゆりがおかでは居心地の良いホーム作りとスタッフの質の向上を目標としています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に地域の方に挨拶をしたり、コミュニケーションをとるようにしている。また、隣接している小規模多機能にボランティアで歌などに合同で参加させて頂いている。スタッフの子供が小学校のコーラス入っているので依頼中。	自治会には小規模が加入し、地域の高石神社のお祭り、どんど焼、清掃活動などにも参加しています。ホームを知って頂くことも含めて夏祭を実施し、地域の方達との交流を深めています。散歩の際に挨拶を交わし、コミュニケーションを図っています。隣接している小規模多機能にボランティアが来所した際は、合同で楽しんでいます。近所の小学校のコーラス部の子どもたちの来訪が年4回あり、利用者にご披露してくれています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している小規模多機能ご利用されているお客様にも、GHの内容を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2～3ヶ月ごとに行なっている。ホームの現状や行事について話をし、小規模多機能のご利用されているご家族様と合同で行い、GHと小規模多機能ご利用されているご家族様同士の話し合いを行っている。	運営推進会議は2～3ヶ月に1度開催しています。メンバーは民生委員、地域包括支援センター職員、ご家族と事業所関係者で実施し、状況・活動報告を行っています。参加者からの意見・要望はサービス向上に活かしています。多くのご家族に参加を得られるよう、全員に案内を出しています。運営推進会議では小規模利用のご家族にも参加いただき、GHの家族との交流の機会にもなっています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの話し合いはあるも、市の担当者とは行き来する関係までは至っていない。	市及び区の担当者とは、生活保護の受け入れを行っている関係で麻生区の担当課と連絡を取り合っています。高齢支援課の方とは利用者について、電話などで相談に乗っていただくこともあります。地域包括支援センターには運営推進会議にも参加して頂き、情報交換や話し合いの場が持っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は虐待であることを管理者はスタッフに常に伝えている。玄関施錠はやむをえないが閉じ込めないホームでありたいことを管理者はご家族及びスタッフに繰り返し伝えるようにしている。身体拘束が必要なお客様についてはご家族様に内容を伝えご了承頂いている。	身体拘束については拘束・虐待防止のマニュアルがあり、スタッフハンドブックにも記載されています。定例研修やミーティング等で身体拘束をしないケアを話し合い、周知徹底しています。安全面に考慮して玄関の施錠はしていますが、閉じ込めないホームでありたいことを管理者はご家族及びスタッフに繰り返し伝えていきます。拘束が必要な場合にはご家族の了解を得て行なう規定となっています。拘束の事例が発生した場合は、速やかに委員会を立ち上げ早期解決に向けて取り組んでいます。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例研修で年2回以上は必ず虐待防止について取り上げている。利用者の体のあざ等に気付いた場合は申し送り時情報をスタッフ間で共有し、話し合える雰囲気を作るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で取り上げ、権利擁護の制度について理解し、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約を行っている。十分に説明し、利用者・家族に不安がないよう、理解していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を重要事項説明書に記載し、入居時に説明している。家族会では家族同士が話し合えるような場を作っている。運営推進会議時も話し合える環境を作っている。	入居時に重要事項説明書にも苦情相談窓口が記載してあることを説明しています。ご家族からの意見・要望については、来訪時や電話で伺っています。管理者がいる際は管理者が対応することを原則とし、ご家族と話す時間を設けています。また、運営推進会議、年2、3回イベントと併せて開催している家族会でも、意見・要望の聴取に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングや毎日の朝礼・夕礼時、スタッフの意見や提案を出せる機会を作っている。ならびに週1回各階カンファレンスを行っている。現在カンファレンスは出来ていないので、今後もっと意識を高め行き、働きやすくお客様の為に行う。	月1回の全体ミーティングや毎日の朝礼・夕礼時、スタッフの意見や提案を出せる機会を作っています。また、週1回のユニット毎のカンファレンスでも職員の意見を募っています。研修会への参加を促す全社体制があり、契約社員についてもチャレンジシートがあり、資格取得で昇給に繋がる体制も制度化しています。(2級ヘルパー、介護福祉士、普通自動車免許等)面接は年1回、3月の再契約の時期に面接を行い、業務その他の意見も聞いています。所属長に話しにくいケースのための本社ホットラインや嘱託医(産業医)のメンタルカウンセリングも利用出来る体制が整っています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年契約更新時に面談を行い、各自の1年間の目標を立てたり、評価を伝えたりしている。必要時、随時面談を行うようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の採用時研修。所内の毎月の定例研修を計画的に行っている。ヘルパー2級講習を希望する職員には法人の補助がある。法人の研修を100%受けられるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者・計画作成担当者・ケアマネージャーが家族会等に参加、同業者と交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に本人・家族に来所してもらい、入居者や職員とお茶を飲んでお話ししたり、レクに参加したりする時間を設けている。本人とお話しし、困っていること、希望していること等伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず家族が困っていることをお聞きし、悩み・不安を否定せずに受け止めるようにしている。本人も家族もお互いを思って安心して暮らせるように支援することをお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けた時点で、本人・家族が困っていることをお聞きしている。グループホームの利用が適切でない場合、他のサービスを説明、相談窓口をお知らせしている。現在は隣接している小規模の話も織り込んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、掃除・洗濯物たたみ・庭仕事等、職員と一緒に楽しみながら行っている。職員は、子育ての相談をしたり、料理を教えてもらったりすることがある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の生活はホームで過ごしながらも、本人の家族への思いは強く忘れることがないことを家族へ伝え、できるだけホームに来院していただき、一緒にいる時間を作ってもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの場所の写真等から話題を作ったり、色々な場所にドライブに出かけたりしている。なじみの人においでいただいたり、電話・手紙を希望される方には支援するようにしている。	本人の馴染みの場所の写真等から話題を作ったり、色々な場所にドライブに出かけたりしています。馴染みの方に来訪頂いたり、電話・手紙を希望される方には取り次ぎや手紙を出せるよう支援しています。遠方へ行く場合は家族対応でお願いしています。管理者は利用者にとって、第2の自宅になるよう、地域との関係作りや交流にも力を入れています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	病気の症状の具合、性格等考慮し、落ち着く席順にする。一緒に楽しめるレク・行事を提案するようにしている。お互いに挨拶できるような職員が配慮している。一人入院すると、みなで心配している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方・家族からの相談には親身に応じている。必要な相談に応じたり、相談窓口を紹介したりしている。1名自宅へ戻られた方の奥様と月に1.2回連絡取り合い相談を受けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の「メモリーブック」（アセスメント）で本人の今までの暮らしや意向を把握している。意向の把握が困難な人は態度や様子から判断している。	入所前にご家族・本人から生活歴、家族状況、本人の今までの暮らし、仕事、家系図、好き嫌い、出来ること・出来ないこと及び意向を確認し「メモリーブック」（アセスメント）にて把握しています。日々の暮らしの中で本人から聞かれた言葉を記録し、意向の把握が困難な人は態度や様子から本人本位に検討して意向の汲み取りに努めています。得られた情報については、申し送りや日常の生活記録に記録し、情報を共有しながら介護計画に反映させています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の「メモリーブック」（アセスメント）で本人の今までの暮らしや意向を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の「メモリーブック」（アセスメント）で本人の今までの暮らしや意向を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の様子を見て、職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。必要に応じて、医師・看護師と話し合い意見を反映させている。	入居時のアセスメントで、本人・ご家族の希望・要望を伺い、生活記録や本人のADLを踏まえてカンファレンスで職員で意見を出し合い、ケアマネジャー・計画作成担当者が介護計画を纏め、作成していません。必要に応じて、医師・看護師と話し合い、意見を反映させています。出来上がった素案をご家族に提示し、ご家族の希望を加味した最終の介護計画を纏め、ご家族の承諾を得て実施しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日常生活経過記録に記入している。職員は出勤時に目を通し、情報を共有している。申し送りノートも活用し、休んでいるスタッフが出勤時、対応方法がすぐわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の訪問看護を受け入れている。隣接する小規模多機能から車を借りて全員で外出することもある。家族の都合の悪い時は、職員が付き添い通院することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スタッフの知人がボランティアで日本舞踊をやって下さったり、散歩のボランティアに来て下さる。今後は地域のコーラスを招き入れる予定。スタッフより、音楽交流サロンというのがある情報を聞き、月2回発表会があるので参加していく予定。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望により、協力医療機関の訪問診療を受けられる。法人の訪問看護ステーションから看護師が月に2回来訪し、健康管理を行っている。	主治医等と連携し、適切な医療を受けられるよう支援しています。利用者・家族の希望により、従来のかかりつけ医での受診、協力医療機関による往診を選んでいただいています。看護師については法人の訪問看護ステーションから月に2回来訪し、健康管理を行っています。訪問歯科は週1回往診に来ていません。医療保険のマッサージを利用している方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の看護師訪問時、職員は毎日の生活の中での気付いたことを相談している。夜間は電話での相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に訪問しご様子を把握し、医師・看護師と情報交換し、退院後の計画を立てるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	通常の介護が困難になった場合、家族・医療機関・ホームが相談して他施設への移動・入院も含めた対処をすることになっている。場合によっては看取りを行う可能性もある。入居時に家族に説明してある。	通常の介護が困難になった場合、家族・医療機関・ホームが相談して他施設への移動・入院も含めて今後の方針を説明していますが、希望により看取りも行っています。重度化や終末期に向けた方針は、まず契約時に説明し、利用者の状況に応じてご家族及び主治医、訪問看護師と連携を取り、今後の方針を決定しています。セントケア本社でターミナルケアの研修も実施しており、受け入れ可能な体制も整っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変時マニュアルに沿った対応が速やかにできるよう研修を行っている。毎日の朝礼時、CPRの訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応については、定例研修で年2回実施している。うち1回は麻生消防署の方も同席出来るよう対応している。	非常災害時の対応については、熟練研修を行い、年2回の避難訓練を実施しうち1回は消防署の方に来て頂き避難訓練（夜間想定を含む）を実施しています。また、緊急時に混乱しないよう、ご家族やスタッフの緊急連絡先も整備しています。備蓄は震災後、食料品3、4日分、携帯トイレ、ランタン、電池、カセットコンロとボンベなどを準備しています。備蓄はセントケアとしてマニュアル化されており、社内防災担当の監査を実施しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で、居室には無断で入らないこと、トイレ使用時は戸を閉めること、幼稚な言葉かけをしないこと、入浴を一人で入るとの希望があった際は5～10分おきに声掛け対応すること等、管理者は繰り返し指導するようにしている。	尊厳を守り、その方にあった声かけ、言動を心がけた支援をしています。人格の尊重とプライバシーの確保は熟練研修のテーマとなっており、マニュアルに沿って教育をしています。日々のケアの中で、居室には無断で入らない、トイレ使用時は戸を閉める、幼稚な言葉かけをしない、入浴を一人で入るとの希望があった際には5～10分おきに声掛けをし対応する等、管理者は職員に指導しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、職員が決めるのではなく、本人が決定する機会を作るようにしている。言葉に出せない方は、表情・態度で推し量る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間を基本として大まかな流れはあるが、それぞれ利用者のペースで、自室でテレビを見たり、手紙を書いたり、電話をかけたり、庭仕事をしたり、家族と外出したり・・・職員はその人らしい生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は毎月訪問理美容を第1火曜日に呼んでいるので受けている。短くするだけでなく、それぞれの好みのヘアスタイルにしてもらっている。今後はマニキュアなども行っていきたい。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	専任の調理担当者が食事を作る。利用者は能力に応じてテーブル拭き、配膳・下膳等を手伝っている。月に何回か「食レク」を行っている。お客様とメニューを決め一緒に買い物に行く。おやつレクを随時行っている。	レシピは本社から管理栄養士が作成した献立表が1ヶ月毎に送られ専任のキッチンスタッフが食事を作る体制をとっています。定型的な作業標準も完備しています。利用者は能力に応じてテーブル拭き、配膳・下膳等を手伝って頂いています。月に何回か「食レク」を行ない、家族も一緒に楽しんで頂いています。「食レク」では利用者とメニューを決め、一緒に買い物に行っています。おやつレクやイベント食も随時行っています。時には外食、お誕生日にはお寿司を取ることもあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人が栄養管理した献立をもとに食事を作っている。1日1600キロカロリー、水分は1500ccを目安にしている。個人ごとの食事・水分摂取量は記録・管理している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて、洗面所または席で毎食後口腔ケアを行っている。不十分なところは職員が支援する。義歯の管理が困難な方は、職員が行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。排泄表を記録しパターンを把握し役立てるようにしている。夜間は転倒の危険がないように配慮している。現在は2時間か3時間おきに声掛け誘導を行っている。	排泄表を用いて個々のパターンを把握して声かけしています。日中はオムツの使用を減らし、2、3時間おきに声掛けして誘導し、極力トイレで排泄できるよう支援しています。夜間については、転倒の危険がないように配慮しています。利用者のしぐさ、言葉、態度などで尿意、便意を気付くよう職員は努めています。便秘予防のため記録を取り、臭い等も参考にしと排便の声掛けも行っています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分をしっかり摂り運動することにより、便秘を予防するようにしている。医師と相談しながら、スムーズな排便を進めている。必要に応じて下剤仕様している方もいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回入浴している。職員と話をしながらの入浴は楽しみになっている。希望により、同性介助に努めている。菖蒲湯・ゆず湯等季節を感じてもらえるようにしている。	週2、3回、午後からの入浴を基本としています。利用者は職員と話をしながらの入浴を楽しみにしており、カレンダーに温泉マークを付けている方もいます。拒否の強い方は職員を代えたり、時間をズラして声をかけるなど工夫しながらお誘いしています。希望により同性介助や毎日炭酸水の足浴も使用している方もいます。また、菖蒲湯・ゆず湯等を利用し、季節を感じてもらえるようにしています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はフロアの照明を少し落とし、居室は豆球にし、エアコンで快適な温度に調整し、落ち着いて気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はいつでも確認できるようにファイルし、薬は複数の職員が確認の上セットしている。服薬時には、名前日付時間を声に出して読み上げ本人にも確認していただき、確実にのみ込むまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみになるように、掃除・洗濯物たたみ・テーブル拭き等生活の中で役割を持っていただいている。習字、手芸をしたり、ボランティアによる歌や踊りを鑑賞したりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの散歩、買い物、ドライブ。花見、外食等外出の機会を多く作るようにしている。隣接している小規模多機能に車を借りて、車椅子の方も外出の機会をもうけている。歩行不安定や、車椅子使用の方はマンツーマンで行っている。	周辺の散歩、買い物、ドライブ、花見、外食など外出の機会を多く作るようにしています。隣の小規模多機能の車を借りて、車椅子の方も外出できるよう機会を設けています。歩行不安定や、車椅子使用の方はマンツーマンで対応しています。四季折々を感じて頂ける場所（よみうりランドの花見など）へのドライブにも出かけています。ドライブは2か月に1回程度実施しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所の金庫で預かっている。希望によっては、外出時に本人にお財布をお渡しする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方には、投函を手伝っている。希望される方には、ホームの電話を貸している。居室での携帯電話使用は、他の方の迷惑にならないようにという条件付きで可。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダに花壇があり、お客様と一緒に花を育てる事ができる。リビングには利用者が作った季節感のあるものが貼られている。リビングは明るく、居心地がよい。現在はお客様の方から節電と言って下さり、食事の時以外は1つの照明は切っている。加湿器・空気清浄機・エアロウォッシャーで空気をきれいに保っている。	リビングは採光が良く、明るく、インテリアは、利用者の作品、観葉植物や野の花を一輪挿しを飾る程度に留め、シンプルながらも落ち着いて過ごせる空間作りに努めています。また、加湿器や空気清浄機、エアロウォッシャーを設置するなど、リビングの空気をきれいに保っています。現在は利用者から「節電」と言ってくれるので、食事の時以外は1つの照明は切っています。椅子等の調度品は良い物を採用しています。ベランダには花壇があり、利用者と一緒に花を育てています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、気分を変えて寛いだり、他のお客様と歓談できるコーナーになっている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台があり、手を洗ったりできる。利用者好みのベッド、タンス、椅子等を持ち込み、家族の写真や化粧道具があって、その人にあった安らげる場所になっている。	各々の居室の備え付けの物としては、エアコン、クローゼット洗面台が設備されています。洗面台が居室内に設置されていることで、美容や身だしなみ等のブラシパーも配慮されています。火気のあるものを除き、利用者好みのベッド、タンス、椅子等を持ち込み、家族の写真や化粧道具があり、その人にあった安らげる場所になっています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースであるトイレやお風呂には手すりがあり、安全に移動できる。居室の入り口には表札があり自分の部屋とわかりやすい。			

目 標 達 成 計 画

事業所

セントケアホームゆりがおか

作成日

平成28年2月9日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
2	2	地域との関係性	地域の行事に参加し、ホームにて行事がある場合は、当社近隣小規模と連携し実施し地域の方にも参加して頂く。	掲示板を確認し、イベント時はポスターを張ったり配布する。	H28. 4. 1～ H29. 3. 31
39	14	頭髪は出来ているが、おしゃれの日のスタッフの都合により開催出来ていない。	月1階はおしゃれの日を作る。	おしゃれなスタッフがいるので、依頼し化粧品を購入する。	H28. 4. 1～ H29. 3. 31
45	17	週2～3回の入浴が出来ていない方がいる。介助が2名介助になり現在車椅子を使用している為。	週に2回は入浴を行う。難しい場合は、隣接している小規模多機能のパンジーを借り入浴をする。	2名介助が必要な方の場合は、男性1名女性1名で介助を行う。	H28. 4. 1～ H29. 3. 31

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	セントケアホームゆりがおか
ユニット名	ひまわり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔の創造」を理念に掲げ、管理者と職員はその人らしい笑顔が見れるように支えあう体制を作ることを、朝礼で方針書朗読し、夕礼でお客様情報の申し送りする事を徹底するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に地域の方に挨拶をしたり、コミュニケーションをとるようにしている。また、隣接している小規模多機能にボランティアで歌などに合同で参加させて頂いている。スタッフの子どもが小学校のコーラス入っているので依頼中。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している小規模多機能ご利用されているお客様にも、GHの内容を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2~3ヶ月ごとに行なっている。ホームの現状や行事について話し、小規模多機能のご利用されているご家族様と合同で行い、GHと小規模多機能ご利用されているご家族様同士の話し合いを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの話し合いはあるも、市の担当者とは行き来する関係までは至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は虐待であることを管理者はスタッフに常に伝えている。玄関施錠はやむをえないが閉じ込めないホームでありたいことを管理者はご家族及びスタッフに繰り返し伝えるようにしている。身体拘束が必要なお客様についてはご家族様に内容を伝えご了承頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例研修で年2回以上は必ず虐待防止について取り上げている。利用者の体のあざ等に気付いた場合は申し送り時情報をスタッフ間で共有し、話し合える雰囲気を作るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で取り上げ、権利擁護の制度について理解し、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約を行っている。十分に説明し、利用者・家族に不安がないよう、理解していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を重要事項説明書に記載し、入居時に説明している。家族会では家族同士が話し合えるような場を作っている。運営推進会議時も話し合える環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングや毎日の朝礼・夕礼時、スタッフの意見や提案を出せる機会を作っている。ならびに週1回各階カンファレンスを行っている。現在カンファレンスは出来ていないので、今後もっと意識を高め行き、働きやすくお客様の為に行う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年契約更新時に面談を行い、各自の1年間の目標を立てたり、評価を伝えたりしている。必要時、随時面談を行うようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の採用時研修。所内の毎月の定例研修を計画的に行っている。ヘルパー2級講習を希望する職員には法人の補助がある。法人の研修を100%受けられるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者・計画作成担当者・ケアマネージャーが家族会等に参加、同業者と交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に本人・家族に来所してもらい、入居者や職員とお茶を飲んでお話ししたり、レクに参加したりする時間を設けている。本人とお話しし、困っていること、希望していること等伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず家族が困っていることをお聞きし、悩み・不安を否定せずに受け止めるようにしている。本人も家族もお互いを思って安心して暮らせるように支援することをお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けた時点で、本人・家族が困っていることをお聞きしている。グループホームの利用が適切でない場合、他のサービスを説明、相談窓口をお知らせしている。現在は隣接している小規模の話も織り込んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、掃除・洗濯物たたみ・庭仕事等、職員と一緒に楽しみながら行っている。職員は、子育ての相談をしたり、料理を教えてもらったりすることがある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の生活はホームで過ごしながらも、本人の家族への思いは強く忘れることがないことを家族へ伝え、できるだけホームに来院していただき、一緒にいる時間を作ってもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの場所の写真等から話題を作ったり、色々な場所にドライブに出かけたりしている。なじみの人においていたり、電話・手紙を希望される方には支援するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	病気の症状の具合、性格等考慮し、落ち着く席順にする。一緒に楽しめるレク・行事を提案するようにしている。お互いに挨拶できるよう職員が配慮している。一人入院すると、みなで心配している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方・家族からの相談には親身に応じている。必要な相談に応じたり、相談窓口を紹介したりしている。1名自宅へ戻られた方の奥様と月に1.2回連絡取り合い相談を受けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の「メモリーブック」（アセスメント）で本人の今までの暮らしや意向を把握している。意向の把握が困難な人は態度や様子から判断している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の「メモリーブック」（アセスメント）で本人の今までの暮らしや意向を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の「メモリーブック」（アセスメント）で本人の今までの暮らしや意向を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の様子を見て、職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。必要に応じて、医師・看護師と話し合い意見を反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日常生活経過記録に記入している。職員は出勤時に目を通し、情報を共有している。申し送りノートも活用し、休んでいるスタッフが出勤時、対応方法がすぐわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の訪問看護を受け入れている。隣接する小規模多機能から車を借りて全員で外出することもある。家族の都合の悪い時は、職員が付き添い通院することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スタッフの知人がボランティアで日本舞踊をやって下さったり、散歩のボランティアに来て下さる。今後は地域のコーラスを招き入れる予定。スタッフより、音楽交流サロンというのがある情報を聞き、月2回発表会があるので参加していく予定。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望により、協力医療機関の訪問診療を受けられる。法人の訪問看護ステーションから看護師が月に2回来訪し、健康管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の看護師訪問時、職員は毎日の生活の中での気付いたことを相談している。夜間は電話での相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に訪問しご様子を把握し、医師・看護師と情報交換し、退院後の計画を立てるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	通常の介護が困難になった場合、家族・医療機関・ホームが相談して他施設への移動・入院も含めた対処をすることになっている。場合によっては看取りを行う可能性もある。入居時に家族に説明してある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変時マニュアルに沿った対応が速やかにできるよう研修を行っている。毎日の朝礼時、CPRの訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応については、定例研修で年2回実施している。うち1回は麻生消防署の方も同席出来るよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で、居室には無断で入らないこと、トイレ使用時は戸を閉めること、幼稚な言葉かけをしないこと、入浴を一人で入るとの希望があった際は5～10分おきに声掛け対応すること等、管理者は繰り返し指導するようにしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、職員が決めるのではなく、本人が決定する機会を作るようにしている。言葉に出せない方は、表情・態度で推し量る。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間を基本として大まかな流れはあるが、それぞれ利用者のペースで、自室でテレビを見たり、手紙を書いたり、電話をかけたたり、庭仕事をしたり、家族と外出したり・・・職員はその人らしい生活ができるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は毎月訪問理美容を第1火曜日に呼んでいるので受けている。短くするだけでなく、それぞれの好みのヘアスタイルにしている。今後はマニキュアなども行っていきたい。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	専任の調理担当者が食事を作る。利用者は能力に応じてテーブル拭き、配膳・下膳等を手伝っている。月に何回か「食レク」を行っている。お客様とメニューを決め一緒に買い物に行く。おやつレクを随時行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人が栄養管理した献立をもとに食事を作っている。1日1600キロカロリー、水分は1500ccを目安にしている。個人ごとの食事・水分摂取量は記録・管理している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて、洗面所または席で毎食後口腔ケアを行っている。不十分なところは職員が支援する。義歯の管理が困難な方は、職員が行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。排泄表を記録しパターンを把握し役立てるようにしている。夜間は転倒の危険がないように配慮している。現在は2時間か3時間おきに声掛け誘導を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分をしっかり摂り運動することにより、便秘を予防するようにしている。医師と相談しながら、スムーズな排便を進めている。必要に応じて下剤仕様している方もいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回入浴している。職員と話をしながらの入浴は楽しみになっている。希望により、同性介助に努めている。菖蒲湯・ゆず湯等季節を感じてもらえるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はフロアの照明を少し落とし、居室は豆球にし、エアコンで快適な温度に調整し、落ち着いて気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はいつでも確認できるようにファイルし、薬は複数の職員が確認の上セットしている。服薬時には、名前日付時間を声に出して読み上げ本人にも確認していただき、確実にのみ込むまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみになるように、掃除・洗濯物たたみ・テーブル拭き等生活の中で役割を持っていただいている。習字、手芸をしたり、ボランティアによる歌や踊りを鑑賞したりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの散歩、買い物、ドライブ。花見、外食等外出の機会を多く作るようにしている。隣接している小規模多機能に車を借りて、車椅子の方も外出の機会をもうけている。歩行不安定や、車椅子使用の方はマンツーマンで行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所の金庫で預かっている。希望によっては、外出時に本人にお財布をお渡しする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方には、投函を手伝っている。希望される方には、ホームの電話を貸している。居室での携帯電話使用は、他の方の迷惑にならないようにという条件付きで可。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダに花壇があり、お客様と一緒に花を育てる事ができる。リビングには利用者が作った季節感のあるものが貼られている。リビングは明るく、居心地がよい。現在はお客様の方から節電と言って下さり、食事の時以外は1つの照明は切っている。加湿器・空気清浄機・エアロウォッシャーで空気をきれいに保っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、気分を変えて寛いだり、他のお客様と歓談できるコーナーになっている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台があり、手を洗ったりできる。利用者好みのベッド、タンス、椅子等を持ち込み、家族の写真や化粧道具があつて、その人にあつた安らげる場所になっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースであるトイレやお風呂には手すりがあり、安全に移動できる。居室の入り口には表札があり自分の部屋とわかりやすい。			

目 標 達 成 計 画

事業所

セントケアホームゆりがおか

作成日

平成28年2月9日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
2	2	地域との関係性	地域の行事に参加し、ホームにて行事がある場合は、当社近隣小規模と連携し実施し地域の方にも参加して頂く。	掲示板を確認し、イベント時はポスターを張ったり配布する。	H28. 4. 1～ H29. 3. 31
39	14	頭髪は出来ているが、おしゃれの日がスタッフの都合により開催出来ていない。	月1階はおしゃれの日を作る。	おしゃれなスタッフがいるので、依頼し化粧品を購入する。	H28. 4. 1～ H29. 3. 31
45	17	週2～3回の入浴が出来ていない方がいる。介助が2名介助になり現在車椅子を使用している為。	週に2回は入浴を行う。難しい場合は、隣接している小規模多機能のパンジーを借り入浴をする。	2名介助が必要な方の場合は、男性1名女性1名で介助を行う。	H28. 4. 1～ H29. 3. 31

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。